

MECE

MECE ってなに？

「漏れなくダブリなく」と訳され



総合的な視点から必要な必要な事実を分類して、問題や課題に対する正しいアプローチを導き出すことができる

MECE で全体を見るアプローチ方法

- **トップダウンアプローチ**

- 全体から詳細にブレークダウンするアプローチ方法
- 全体像が明確に定義できるときに有効となるアプローチ

- **ボトムアップアプローチ**

- 詳細を集めてから全体像を描いていくアプローチ方法
- 全体像が不明瞭な場合や、要素分解の見当がつかないときに有効

それぞれのアプローチ方法のメリット

- **トップダウンアプローチ**

- 体系的・俯瞰的に物事を考えることができる
- ゴールを意識した分類がしやすい

- **ボトムアップアプローチ**

- 未知な領域でも思考を始められることができる
- あらかじめ適切な分類方法がわからない場合に有効

それぞれのアプローチ方法のデメリット

- トップダウンアプローチ

- 全体像に誤りがあると、漏れやダブリが生じやすくなる
- ゼロベースでのスタート地点ではつかえない

- ボトムアップアプローチ

- 全体像が不明瞭なため、要素に抜けや漏れが生じやすくなる

MECE を活用するフレームワーク

- 3C 分析
- SWOT 分析
- 4P 分析
- 7S 分析
- PDCA
- バリューチェーン
- ロジックツリー
- 5 フォース分析
- PEST 分析

MECE になっていない具体例

- 「アンケートを集め終業形態によって分類する」

正社員、派遣社員、アルバイト、パート、無職という要素で分類した場合、フリーランスや個人事業主のような人たちはこの分類にはあてはまらないので漏れがあります。

MECE になっている具体例

- 「日本の国民を MECE に分ける」

年代（年齢）と性別に分けることで国民を漏れなく、ダブリなく網羅することができます。

1-1 10 歳未満、10 代、20 代...年代別

1-2 男性、女性...性別

MECE の注意点

- 分類できない事象の分類できない事象のグルーピングに注意する
 - 明確に分類できない場合、あまり効果的ではない
- 目的を忘れないようにする
 - なぜ MECE で考えるのか、何のために分類するのかという目的をアッキリさせる
- 要素の優先順位を意識する
 - 最重視すべき要素をしっかりと決めて、考え方の切り口は 1 つに絞る